

令和6年度第1回十和田市総合教育会議 会議録

日 時 令和7年2月12日 午前10時00分より
場 所 十和田市役所 本館3階 庁議室

出席者 十和田市長 櫻田 百合子
十和田市教育委員会 教育長職務代理者 斗沢 一雄
" 委 員 深瀬 郁子
" 委 員 小笠原 拓司
" 委 員 坂本 稔

十和田市教育委員会事務局 教育部長 浦田 陽子
" 教育総務課長 乗田 育人
" 指導課長 江渡 勇
" スポーツ・生涯学習課長 坂下 淳
" 教育総務課長補佐 櫻田 悟
" 指導課長補佐 山田 勇一
" 指導課 指導主事 見友 信子
" 指導課 指導主事 工藤 正也
" 指導課 指導主事 内山 浩晃

教育部長	・本日は、ご多用にもかかわらず、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。 - ただ今より、令和6年度第1回十和田市総合教育会議を開催いたします。 - はじめに、市長からご挨拶をお願いいたします。
市長	あいさつ（略）
教育部長	・ありがとうございました - 続きまして、次第2の議事に入りますが、ここからの進行は市長にお願いしております。市長よろしくお願いいたします。
市長	・それでは、次第2の議事に移らせていただきます。 「十和田市の学校安全」について、事務局から当該事業の説明をお願いします。
指導主事	説明（略）
市長	・ご説明ありがとうございます。 ・それでは、意見交換に移ります。 - ただいま、事務局から説明がありました。内容も多いことから、項目ごとに分けて意見交換したいと思います。はじめに、「学校安全」の27ページまでについて、委員の皆様、ご意見、ご質問等はありますか。
坂本委員	・学校の長寿命化事業についてのご説明をいただきました。学校施設の強化は、防災機能も含めて子どもの命を守るうえで大切なことだと思います。

	すが、東中学校のあとの計画はあるものなのかどうかお伺いしたいなと思います。
教育総務課長	・ 現在、ちとせ小学校の改築について進めておりますが、長寿命化については、令和 11 年度に北園小学校、その次は令和 16 年度に三本木小学校の長寿命化の計画を立てております。
坂本委員	・ ありがとうございます。 本日の議題からちょっとそれるかもしれませんが、学校が災害時の避難所になっております。その時に建物の強化ももちろん大事なのですけれども、体育館の空調設備も国のほうもいろいろ補助事業を出したりして、全国的に空調設備のある体育館・避難所を増やそうとしている計画がありますので、この長寿命化事業の先のほうにその辺も視野に入れてもらえればありがたいなというふうに希望を持っております。
市長	・ ありがとうございます。そのほかにご意見・ご質問等はございますか。
斗沢委員	・ 十和田市の学校教育の中で、危機管理マニュアルを作成して参考にしてもらいたいということでしたが、すごくいいなと思っていました。ぜひ今後も続けてもらいたいと思いますが、各校の危機管理マニュアルは大体作っていると思うのですけれども、その確認というのは、どの程度作って、学校の特徴はどうかという把握をしているのか、それが実際に実践されているのかというのは、市教委としてはどうなのかなと質問しました。
山田課長補佐	・ 各校の計画訪問の際に提出していただく資料の中に調査項目を設けておりまして、不備等があった場合は指導等をしております。また、先ほど申し上げましたが、各種調査、県からいろいろな調査がございしますが、そういったところでも、危機管理マニュアル、例えば昨年度は不審者対応に対して３段階の点検をしてくださいというところだったのですが、２段階しか設けていない学校がありましたので、そういったところで指導するという形で行っております。
市長	・ ほかにご意見・ご質問等はございますか。
小笠原委員	・ 坂本委員と重複するところもありますけれど、長寿命化工事はだいたい何年くらい延命できる想定があったのかなというところをお伺いします。
教育総務課長	・ 長寿命化の対象となる学校は、築 40 年を超えたものを想定しております。今後何年間をとということですが、30 年間を想定しております。
坂本委員	・ 危機管理マニュアルについてお伺いしたいと思います。とても大切なマニュアルで、共通理解を図って足りないところをチェックされているのはとても大切なことだなと思って話を聞きました。ちょっとそれるかもしれませんが、災害時避難所開設マニュアルというのが市長部局と一緒に作られているかと思いますが、そちらの見直しとか共通理解のほうも行われているのかなと確認したいと思います。

教育総務課長	・避難所運営マニュアルという名前で、市長部局のほうで出しておりますが、修正するごとに学校へ配布しております。近年では、令和3年度の6月に修正されて配布しております。そして、毎年4月の校長会議で避難所の開設については、教育総務課から説明・お願いしておりまして、学校の協力を得て、市の責任で開設運営をすることを確認しております。
市長	・そのほかございませんか。 ・それでは、次のテーマ「生活安全」の48ページまでについて、委員の皆様、ご意見等はございますか。
深瀬委員	・ちょっとした工夫で、学校の中で危険が防げる、線を引いたりだとか、真ん中に物を置いたりだとかで防げるという話があったのですが、学校に訪問した時に真ん中に折り鶴が置いてあったり、歩きにくいなと思っていたものが、怪我の防止のためだったんだなと思ってすごくいいことだなと思いました。ちょっとした工夫で怪我が減らせるのであれば、子どもの性質とかも見て怪我を減らす方法で続けていただけたらと思います。
斗沢委員	・各教科でいろんな工夫した取組みをやっているというのが、すごく関心しました。身近な生活の話をする、私のうちに孫が来ると、包丁とカッターなどの刃物は近くに置くなとよく言われまして片づけたりするのですが、この間も鉛筆を砥げと言ったら、カッターでできないんですね。そういったこともあれっと思ったのですが、小学校ではカッターの使い方なんかもやっているということで、すごく感心しました。今後いろんな体験を繋いでもらいたいなと思っています。 ・AEDの取り扱いというか、指導というか、私も教員時代にやりましたけれども、当時は消防の方が来てやってくれたと思うのですが、今の説明を受けるとAEDは中学校2年生の時に先生方が指導しているものでよいのですか。それとも、外部の方が来てやるのか。
見友指導主事	・令和6年度は5校がAEDを使用した心肺蘇生実習研修会を消防署の方を招いて行っております。また、職員もAEDの講習等を行っております。小学校では7校、中学校では5校が行っております。
坂本委員	・熱中症の予防の話がありましたけれども、近年特に力を入れているところかと思えます。そこがきちんとなされているというのが、命を預かる学校っていう視点から見ると大変ありがたいと思って聞いていました。今日の資料の中に、負傷疾病の発生状況の数字がありますけれども、これは近年増えてきているものなのかどうなのか、その辺の推移も教えてもらいたいなと思えます。
見友指導主事	・発生件数は、小学校中学校ともに減少傾向にあります。しかし、児童生徒数に対する発生の割合でみますと、小学校は4%前後、中学校は9%前後で推移していて、小学校はあまり変わらない、中学校は過去5年間でみると減少傾向にあります。

坂本委員	・ これからも学校へのご指導よろしくお願いします。
小笠原委員	・ A E Dのところですけど、各校に1台設置されていると思うんですけど、使った事例はあるものなのかなと。それについて、中学生は実際に触って訓練しているのでしょうか。
見友指導主事	・ 令和元年度から令和6年度までの事故報告書の救急搬送の事案を見ますと、A E Dを使用した事案はありませんでした。また、実習の話が出ていましたが、心肺蘇生実習研修会を消防署の方を招いてやっていますが、グループごとに人形を置いての実習になっておりますので、全員が操作したかどうかはちょっとわかりませんが、皆でそういった体験を行っているというところです。
斗沢委員	・ 地域との連携が必要だというと、私は本当にそう思います。学校によっては、スクールサポーターの登録とかいろいろやっているのですが、びっくりしたのは、ハンドサックス運動は北小だけでやっているように聞こえたのですが、私が運転していると、横断歩道で止まると南小あたりでも結構やっていると思うんだけど、気持ちいいもんですよ。やっぱり先生方の指導のおかげだなという感じがしますが。特に十和田市は横断歩道の停止率が悪いという話をよく耳にしますので、そういう意味では今後とも続けてほしいと思いますが、北小だけではないよねという単純な質問です。
工藤指導主事	・ 説明では、北園小学校の例を紹介させていただいたのですがけれども、他の学校でも止まって意思表示をして、渡る前と渡った後にお辞儀する取り組みをしている学校が増えてきているのかなと感じています。
市長	・ それでは、次に行ってもよろしいですか。 ・ それでは、次のテーマ「交通安全」の77ページまでについて、委員の皆様、ご意見等はございますか。
深瀬委員	・ 私は、三小の歩道橋の近くに住んでいるのですがけれども、挨拶運動で歩道橋の近くで登校を見守る活動を続けていたのですがけれども、令和に入ってから歩道橋を使わずに、横断歩道を渡るのを度々見かけまして。私のところを通らないで気まずそうに行く子がいっぱいまして、歩道橋を渡らないのと声もかけれずに、何とも言えない気分で、挨拶運動ができなくなってしまって今はやっていないのですがけれども、学校全体で校外学習するときは歩道橋を渡るのですがけれども、学校的にはどうなのでしょう。
工藤指導主事	・ 三本木小学校としては、歩道橋を使っても横断歩道を使ってもどちらでもいいと指導していると聞きました。深瀬委員が仰るとおり、校外学習では歩道橋を通って行っているシーンも見つたこともありますし、おそらく子どもたちが判断してどちらかを使っているのかなと思っています。
指導課長	・ 補足いたします。登下校に関しては、保護者の意向ですとか、保護者がここを通りなさいというところも入ってきますので、そこは学校の指導と保護者の指導とバランスをとって登下校は進めておりますので、よろ

	しくお願いいたします。
市長	・ほかに質問等はございませんか。
坂本委員	・意見になりますけれども。通学路の安全点検、これ毎年春先に行われていて、改善が必要なところはすぐに改善に向けて動き出すっていうのは、子どもを送り出す保護者からすると安心できることだと思いますので、これからも続けていただければと思います。それから、地域と連携しての交通安全の取組みっていうのは、とても大事だと思います。学校の職員も数限られておりますし、なかなか全て対応できませんので、地域社会のマンパワーを活用できると安全がより増すので、これも素晴らしいなと思います。それから、先ほど挨拶の話ありましたけれども、私の住んでいるところの近くの中学校を朝散歩すると、中学生も止まった車にお礼をしてくれてというのをよく見ます。中学生がきちんと挨拶できる十和田市って素敵だなと思いますので、これからもそんな十和田市でいてくれたらなという感想です。
市長	・そのほかに何かご意見ございますか。大丈夫ですか。 ・それでは、最後のテーマ「災害安全」の 98 ページまでについて、委員の皆様、ご意見等はございますか。
坂本委員	・避難所運営訓練のお話の中にありました。実際の総合防災訓練と一緒にやるとか、避難所開設のものをやるとか、私はこういうのはいいなと思いながら話を聞いていました。実際の災害を意識して取り組んでいくっていうのがとても大事な視点だと思います。課長のお話の中で実践的な訓練の工夫が今後の課題だとありましたけれども、災害を意識していくのはとてもいいと思います。具体的に言いますと、例えば大規模地震があって、子どもの保護者への受け渡しまでをどうするかとか、避難所開設になって、地域の人々が来た時に車の動線をどうするか、保護者の送り迎えと重なった時にどうするかとか、考えておかなければならないことがいっぱい出てくる気がするんですね。ですので、実際の災害を意識した訓練をこれからどんどん実施していただければと思いました。
斗沢委員	・防災訓練のことなのですが、毎年行われているということで、地域というか、学校を中心に行われているということは聞いていましたが、私も県の防災訓練のほうでうちの町内でもやったことがあるので参加したことはあります。坂本委員からも出ましたが、避難所の運営については、生徒よりは地域の方々に教えていかないといけないので、安全安心の学校教育というのは、地域との連携がないとなかなかできないなという感じで皆がそう思っているのですが、これから少子化になりますので、大切な子どもたちを守るためには、地域にいるお年寄りたちが頑張ってもらわないと思います。そういう意味では、私は初めて避難所作りに参加したのですが、こういうベットの作り方もあるのって結構感動したこともありますので、そういうことを多くの人にさせる必要があるのかな、地域と一緒に取り組んで行けたらなと思います。
市長	・ほかにございませんか。よろしいでしょうか。 ・それでは、私から一言お話をさせていただきたいのですが、先日、女性防

	災士の方々からご報告を受けました。小学生の子どもたちに女性防災士の方達が、さまざまな訓練をしましたということで報告を受けたのですが、先ほど斗沢委員からもお話ありましたが、段ボールベットの上にジャンプして、こんなに強いんだというふうな、また、簡易トイレに驚いた、これが大変な時にトイレになるんだというふうな驚き、こういったことはやはり市の防災士の皆様、地域の方達になるのですが、こういう方達の協力を得ながら、やっていけたらと思います。子どもたちこれから大人になっていきます。今は安心安全なまちと言われている十和田市ですが、やはりこれから成長していく中で、地域の人たちに今度は助けてもらったり助けてあげたりというふうな形に成長していく中で、体験・経験は必要なのかなというふうに防災士の方から報告を受けた時に思いましたので、地域の方に関わっていただくという意味でも、防災士の方達と協力しながら、子どもたちのこれからの防災体験をして意識付けに結び付けていけたらなというふうに思いました。 ・ほかに、全てにわたってご質問、ここ言い忘れたなということでも構いませんので、ございましたらどうぞ。 ・よろしいですか。
小笠原委員	・今日説明を聞いて、私の子どもたち3人お世話になっていて、一括りで言うと、十和田の学校で良かったなと感じておりました。安心して学校に行かせられるなと感じております。そういった面で、教育委員会でできること、各学校でできること、地域の協力でできること、いろいろ各方面あると思いますけども、全体的にそういった結びつきがだんだんにできている、もうやっている、もうちょっとやればできるところもあるのかもしれませんが、十分合格点に達しているんじゃないのかなと感じております。今後、教育委員会と市のほうで頑張れるところ、ハード面の整備とか先ほど出ていました災害避難所としてのエアコン設置とかいろいろ課題もあると思いますけれども、ぜひそういうところを一つ一つクリアしていければより良くなるなと思っております。今後も期待しております。笑顔あふれるまちによりしくお願いいたします。
市長	・ほかによろしいですか。 ・それでは、その他も特にないようですので、以上で次第3を終了いたします。 ・それでは進行を事務局にお返しします。
教育部長	・大変ありがとうございました。長い時間に渡っていろいろご質問、ご意見を賜りまして、これを糧として教育委員会として取組みを進め、さらにご指摘のありましたいろんな方との連携も進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上をもちまして、令和6年度第1回総合教育会議を閉会いたします。本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。